



真宗大谷派 (東本願寺) 天満別院

# 六字城

723号

2025  
2/1

大阪市北区東天満1-8-26  
06-6351-3535  
代表者 輪番・奥林曉

天満別院崇敬寺院巡り

潜龍山 圓満寺

住職 杉本 潤

住所 大阪市鶴見区諸口二丁目十番二十六号

沿革

由緒書によると圓満寺は江戸時代中期宝暦3(1753)年8月22日、諦観上人がここに道場を建立したのが始まりとなっている。圓満寺がここに道場を開くまで、諸口村には次の2カ寺が建っていた。真宗寺—密教寺院から転宗して新発足した寺。宗派は真宗大谷派。明覚寺—宗派は本願寺派。ここへ圓満寺が仲間入りしたので諸口村は3カ寺となり、真宗寺は中の寺、明覚寺は南の寺、圓満寺は東の寺と呼ばれるようになった。

このような土地に新しく寺を構えたので、開

2月 定例法話  
天満別院では多彩な講師陣が解りやすく真宗のみ教えをお話ししていただきます。2月は左記の通り定例法話を開催致します。

日時 2月24日(月)  
13時30分

場所 天満別院 本堂

御講師 第16組 浄興寺住職  
藤澤 敦子師

今月の伝道掲示板

今の時の道俗、

己が分を

思量せよ

教行信証化身土 | 親鸞聖人 |

編集後記

心がにごると「意思」が「意地」になり「口」がにごると「愚痴」になり、「徳」がにごれば「毒」となります。ホコリが自然と溜まっていくように何気なく普段通りに過ごしていても知らず知らずの間には心は濁っていきます。普段からの何気ない心の掃除が大切だと学ばされました。

(I)

基の諦観上人はもとより、代々の住職も非常に苦勞されたことと想像される。圓満寺の「蓮如上人絵像」の裏書きからみると、明和7(1770)年頃にはすでに「諸口村惣道場」として教化活動の要になっていたようである。杉本潤住職は現在11代目の住職を引継ぎ、天満別院の院議会議員に就任されておられます。

圓満寺では修正会、永代経、盂蘭盆会、報恩講等の法要を勤修されています。門扉に法語を掲載し、毎月発行している新聞には法語の味わいを書かれておられます。

杉本住職は「ある人の勧めで新聞を書くようになった。法語は4年ほど前に、新聞は3年ほど前から継続している。門扉に誰でも手に取れるように新聞を置いていますが、月初めに新しい新聞を置いていないと、まだ今月号は出来なのかという問い合わせもあり、毎月楽しみにしてくれる人もいます。用心の為に門を閉めてしまふこともあるが、締めてしまっても新聞を手にとり仏縁に出遇っていただきたい」とお話しされていました。

3月	
12日	闍如上人御遠夜・永代経 (14時)
13日	闍如上人御命日晨朝兼日中 (8時)
15日	合唱団「みのり」 (14時)
17日	春季彼岸会 並 総永代経法要 兼 墓地納骨(物故者) 追弔法要 (13時30分) 小松 崇師 (第15組 泉勝寺)
25日	蓮如上人御祥月命日晨朝兼日中 (8時)
27日	宗祖聖人御遠夜 (14時)
28日	宗祖聖人御命日晨朝兼日中 (8時) 法話：輪番



### 『他力本願』の本来の意味は？



他人からの働きかけを拒む、難癖をつける。など悪い意味を持つ言葉です。

「他力本願」の本来の意味は、私たちが自らの力ではなく、他者の力、特に阿彌陀如来の力によって救われるという考え方です。

「他力」とは、曇鸞大師によれば、①私たちが浄土に生まれ変わらせてくれる力②浄土で修行させてくれる力③浄土からこの世に戻る還相の菩薩にさせてくれる力です。このいずれもが阿彌陀如来の「本願（四十八願）」の力によるものだということなのです。

特に親鸞聖人は自力での修行や勤行によつての救済は難しいと考え、私たちが煩惱や無知から解放される手段として、修行や特別な行為に頼らずとも、阿彌陀如来の願いによつて救われ、人々が自力での修行や悟りを求める必要はないと教えました。

「他力といふは如来の本願力なり」  
(教行信証より)

(第13組 教安寺 洲崎 善樹)

### 答え

現代では「他力本願」は「自分の力で努力せず、もっぱら他人の力をあてにすること」と否定的な意味で使われることが多いですが、これは、言葉の使い方の「俗用」です。

俗用とは本来とは違う使われ方が広まり、そちらの意味の方が、一般的になった言葉の使われ方です。例えば現代では「こだわる」とは「匠のこだわりの逸品」のように良い意味での使われ方をすることが多いですが、本来「こだわる」とは、①心が何かにとらわれていて自由に考えることができなくなる、気にしなくてもいいようなことを気にする。②

### 報告

#### 天満別院 新年会開催

去る、1月11日(土) 寿司処海 どうにて天満別院新年会が開催されました。

当日は、寺族・ご門徒総勢21名の方が参加されました。

当日の座席はくじ引きで決め、谷責任役員より乾杯の挨拶があり寺族・ご門徒の別なく歓談されました。最後に八十島門徒会長より閉会の挨拶があり、皆さん楽しいひと時を過ごされていました。



#### 1月 定例法話

1月24日(金) 御講師に18組 圓林寺 池田 剛師をお迎えし、講題「とりかえしとりかえしきく」についてお話いただきました。

師は、『正信偈』の「偈」という字は「ガータ」や「頌」という言い方をしますが、日本語では「讃歌」と訳し釈尊や七高僧からの恩を表していると言われた。また『正信偈』を声に出して勤めることで身に伝わるようになる。

親鸞聖人が「とりかえしとりかえしかきつたり」と表したように何度も最初に戻って書き付けられました。私たちも聞法する時は「とりかえしの心」(初心)に立ち戻って法を聞いていくことが大切だと話されていました。



18組 圓林寺 池田 剛師

#### 大阪教区慶讃法要団体参拝

来る、4月17日(木)〜20日(日)に「大阪教区宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」が難波別院(南御堂)で勤まります。

天満別院門徒会では4月20日(日)に団体参拝を左記の通り計画しておりますぜひご参加くださいますようお願い申し上げます。

当日は、御門首出仕・参堂列(稚児行列)・子供報恩講などが勤まります。

#### 記

日程 4月20日(日)

集合場所 難波別院山門 12時

詳細につきましては、同封の申込み用紙をご覧ください。

慶讃法要は、宗祖親鸞聖人がこの世に生まれてくださったこと、そして「浄土の真宗」というみ教えを私たちに遺して下さったことを「慶び讃える」御仏事です。

#### 2月 同朋の会

日時 2月5日(水) 14時

場所 天満別院 本堂

内容 DVD視聴

蓮如上人御旧跡  
石山本願寺  
〜合戦に殉じた人々〜

蓮如上人は明応5年の秋、淀川河口の葦原に石山坊舎を建てられた。頭如上人の世代に織田信長の誘発によりやむなく交戦。以来、天正8年まで11年間、合戦が繰り返された。これを「石山合戦」といいます。

この作品は、「石山合戦」を軸に、蓮如上人坊舎建立の経過と、その合戦で殉教を遂げた各地の御同行の遺品や口碑を、絵画と現地ロケによって映像化したものであります。ぜひ皆さまご参加ください。

#### 青年部会主催

#### 公開講座開催

教化委員会青年部会による公開講座を左記の通り開催いたします。テーマは「現実を生きるとは」大谷大学准教授の藤元雅文師にお越しいたします。

今回のテーマで青年部会員の中心で2回今年度に学習会を開催してきました。年度の締めくくりにぜひ若手寺族の方も奮ってご参加ください。

#### 記

日時 2月28日(金) 16時〜18時

場所 天満別院 同朋会館 講堂

会費 無料

※参加希望の方は天満別院までご連絡ください。締切は2月21日(金)までとさせていただきます。

#### 新規墓地・

#### 合祀墓納骨のご案内

現在、別院では真宗の御門徒の墓地使用者を募集しています。



また別院の由緒を敬慕し崇敬護持に協力する門徒、及び信徒の墳墓として合祀墓がございます。多くの方々にご利用いただきたく御案内申し上げます。



儀式執行は別院職員が行います。墓地のお求め、納骨等詳しくは寺務所までご連絡ください。